



展示場へ行こう!

家庭の消費電力とエネルギー

私たちの身のまわりには、あらゆる家電製品があふれています。家の中を見渡すとテレビや、炊飯器、掃除機にエアコン、電子レンジなど、電気で動くものがたくさん。さらに外出時には携帯電話やデジカメなどを持ち歩かれる方も多いかと思えます。このような家電製品の歴史を知ることができるのが「家庭の消費電力とエネルギー」コーナーです。

家電製品の歴史は、家庭への電気供給が行なわれるようになった20世紀前半までさかのぼることができます。まず広く販売されたのは照明装置です。現在でも照明装置を点灯する時に「電気をつける」と言うのは、当時のなごりです。そして、モーターを応用した扇風機や、電熱を利用したストーブやアイロンも登場します。また、洗濯機や冷蔵庫、ラジオも、大正末から昭和初期に開発、販売が始まっています。しかしながら、当時は電気の供給地域が狭く、家電製品もとても高価であったため、さほど普及しませんでした。家電製品の普及が本格化するのは1950～1960年代の高度経済成長期で、技術の発展に伴って大量生産が可能になり価格が下がったことが大きな要因です。



写真1 家電の歴史コーナー



写真2 1960年代の真空管式ラジオ

本コーナーでは、家電の実物資料を時代順に並べて展示しています。それらを見ていくと、1960年代から家電製品の種類が急激に増加することがわかります。同時に、家電の種類も増えていて、照明器具や洗濯機、アイロンなど生活を楽しむものに加え、ラジカセやゲーム機など生活を豊かにする製品が数多く登場しています。また製品の小型化、

低価格化により、各家庭に1台しかなかったテレビやラジオなどが、個人で利用されるようになってきた様子もうかがえます。

さらに展示では、1920年代以降の消費電力量の変化をグラフで紹介しており、家電製品の普及に伴って、私たちが消費する電力量も増加している様子を知ることができます。

「家電の歴史」コーナーを通じて、科学技術の発展や、エネルギー利用などさまざまな切り口で考えていただければと思います。 嘉数 次人(科学館学芸員)